

予 算 要 求 資 料

令和5年度6月補正予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 畜産研究所養豚養鶏研究部再編整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内4025)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 ▲ 302,490 千円 (現計予算額： 688,294 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|------------|-----------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----------|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 現 計 予算額 | 688,294 | 300,134 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 317,400 | 70,760 |
| 補 正 要求額 | ▲ 302,490 | ▲ 152,483 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ▲ 137,200 | ▲ 12,807 |
| 決定額 | ▲ 302,490 | ▲ 152,483 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | ▲ 137,200 | ▲ 12,807 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・養豚養鶏研究部(美濃加茂市、関市)は、建設から既に50年以上が経過し老朽化が著しく、研究業務に支障を来している。
- ・平成30年12月には豚熱が発生し、保有していた「ポーノブラウン」の種豚全てを消失したことから、種豚再造成が急務となっている。
- ・このため、美濃加茂市にある養豚研究機能を関市に移し、研究体制強化や種豚再造成のための施設整備を進める必要がある。
- ・令和5年度着工予定の大規模豚舎の建設について、資材価格や労務費の上昇等に伴い、債務負担行為の限度額を変更するとともに、工期変更により当年度の工事費を減額する。
- ・その他、堆肥化関連施設の建設等について、資材価格や労務費の上昇に伴い工事費を増額する。

(2) 事業内容

- ・土地造成工事
- ・建築工事(豚舎関連施設等)
- ・既設建物・構造物解体撤去工事
- ・建築・解体撤去の実施設計業務
- ・各種調査業務

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・地方創生拠点整備交付金 国1/2 県1/2 (建築物に関する工事)
- ・県10/10 (建築物に関する工事以外)

(4) 類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|-----------|----------------------|
| 委託料 | ▲ 5,330 | 工事監理委託費 |
| 工事請負費 | ▲ 297,160 | 建築工事 (豚舎関連施設) 解体撤去工事 |
| 合計 | ▲ 302,490 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3~R7)では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

畜産研究所養豚・養鶏研究部の研究体制強化を目的とした研究施設の移転・統合を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (H29) | R3年度 実績 | R4年度 目標 | R5年度 目標 | 終期目標 (R6) | 達成率 |
|----------|----------------|------------|------------|------------|--------------|-----|
| | | | | | | |
| ① 移転工事完了 | | | | | 1 | 0% |
| ② | | | | | | |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|----------------------|--|
| 令和 2 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・小規模一貫豚舎、隔離豚舎、事務研究棟の建設を行った。 ・R3年度の建築に必要なエリアの建物解体撤去・敷地造成及びR3年度工事予定施設の建物について実施設計・解体撤去実施設計を行った結果、来年度の工事実施をスムーズに行うことが出来ることとなった。 |
| 令和 3 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎関連施設、車両消毒装置等の建設を行った。 ・R4年度の建築に必要なエリアの建物解体撤去・敷地造成及びR4年度工事予定施設の建物について実施設計・解体撤去実施設計を行った結果、来年度の工事実施をスムーズに行うことが出来ることとなった。 |
| 令和 4 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・鶏舎関連施設、堆肥関連施設等の建設を行った。 ・R5年度の建築に必要なエリアの建物解体撤去・敷地造成及びR5年度工事予定施設の建物について実施設計・解体撤去実施設計を行った結果、来年度の工事実施をスムーズに行うことが出来ることとなった。 |
| 指標① 目標：1 実績：0 達成率：0% | |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|---|
| <p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p> | |
| (評価) 2 | <p>貿易自由化の流れを見据え、県内生産者からは、輸入畜産物に対抗できる高品質な生産技術の開発が望まれており、特に優良種畜の供給体制強化に対する要望が強い。そのため、老朽化が激しい養豚・養鶏研究部の施設整備は必要不可欠である。</p> |
| <p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p> | |
| (評価) 2 | <p>畜産研再編整備事業が計画通り進んでいるため、機能向上した研究業務が移転後開始できる。</p> |
| <p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p> | |
| (評価) 1 | <p>必要最小限の予算で取り組むこととしている。</p> |

(今後の課題)

| |
|---|
| <p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 施設の移転・建設に際して、周辺住民・周辺環境への十分な配慮が必要である。また、豚熱をはじめとする家畜疾病の侵入防止に十分備えた施設とする必要がある。</p> |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 畜産研究所養豚・養鶏研究部の研究体制強化は、今後の県内中小家畜振興に必要不可欠であることから、着実に事業を進める。</p> |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------------------|--------------|
| <p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p> | |
| <p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p> | <p>【〇〇課】</p> |